

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人墨田区文化振興財団	
施設名	すみだトリフォニーホール	
内定額	28,496	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		298	317
年間事業本数（※1）	主催事業	23	25
	公演事業	14	16
	（内、本助成対象事業本数）	0	7
	人材養成事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	普及啓発事業	7	7
	（内、本助成対象事業本数）	0	5
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	603	626
	ホール名： 大ホール 座席数： 1801	298	317
	ホール名： 小ホール 座席数： 252	305	309
	ホール名： 座席数：		
	ホール名： 座席数：		
	ホール名： 座席数：		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	34,231	37,201
	公演事業	20,621	22,886
	人材養成事業	1,180	2,457
	普及啓発事業	12,430	11,858
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	113,939	182,380
	その他 内容： 共同主催・共催事業	56,721	62,129
	計	204,891	281,710
施設の利用率(%)		92.5%	96.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	14	16	20,621	80.0%		13		1			
	共催・提携公演(※2)	29	37	56,721	80.0%		29					
	貸館公演(※3)	407	407	113,939	80.0%							
	計	450	460	191,281								
令和6年度	主催公演(※1)	17	20	22,886	80.0%		16		1			
	共催・提携公演(※2)	40	48	62,129	80.0%		40					
	貸館公演(※3)	424	424	182,380	80.0%							
	計	481	492	267,395								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場者 率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	ホルスト「惑星」～愛しの地球よ、さらば！ボイジャー宇宙航海の旅へ～	目標 値	1,150	73.8%	①公演満足度 上位第1位	60%以上	75.7%	入場者数および有料入場者数、評価指標のすべての目標を達成している。企画内容の魅力を広く伝えられたことによる集客増が大きいと思われる。		
		実績 値	1,606	103.0%	②チケット料金適正価格 上位第1位	50%以上	57.7%			
公-02	下野竜也プレゼンツ！音楽の魅力発見プロジェクト第11回 不思議な納涼コンサート～真夏に聴く冬の名曲集～	目標 値	1,150	73.8%	①公演満足度 上位第1位	65%以上	85.3%	入場者数および有料入場者数は目標を達成できていないが、評価指標は達成している。公演の魅力を告知する際わかりやすく進めていく必要がある。		
		実績 値	672	43.1%	②チケット料金適正価格 上位第1位	60%以上	62.9%			
公-03	アヴィシャイ・コーエン meets 新日本フィルハーモニー交響楽団「An Evening with Avishai Cohen “Two Roses”	目標 値	1,080	65.0%	①公演満足度 上位第1位	75%以上	96.5%	入場者数および有料入場者数、チケット料金適正価格については目標を達成していないが、公演満足度は非常に高い。チケット料金が高額で購入を見送ったかたも多いのではないかとと思われる。料金の適正について分析していく必要がある。		
		実績 値	725	43.6%	②チケット料金適正価格 上位第1位	50%以上	39.0%			
公-04	すみだ平和祈念音楽祭2025～戦後80年特別企画～	目標 値	1,150	66.8%	①公演満足度 上位第1位	65%以上	95.7%	入場者数および有料入場者数については目標を達成していないが、評価指標は目標を達成している。集客における広報展開、来場に向けたアプローチに工夫が必要だと思われる。		
		実績 値	1,051	61.1%	②チケット料金適正価格 上位第1位	55%以上	71.1%			
公-05	坂東玉三郎「晩秋の夕べ」	目標 値	1,150	73.8%	①公演満足度 上位第1位	75%以上	63.2%	入場者数および有料入場者数は目標を達成しているが、指標は目標を達成していない。公演内容とチケット料金のバランスが取れていないことが大きいと思われる。		
		実績 値	1,446	92.8%	②チケット料金適正価格 上位第1位	55%以上	28.2%			
公-06	ブラック・ダイク・バンド	目標 値	1,150	66.8%	①公演満足度 上位第1位	65%以上	95.2%	入場者数および有料入場者数、評価指標のすべての目標を達成している。公演のニーズとバランスが合致しており、過去の実績と合わせた企画内容であったと思われる。		
		実績 値	1,641	95.3%	②チケット料金適正価格 上位第1位	50%以上	68.3%			
公-10	みんなで楽しむオーケストラ	目標 値	2,000	62.5%	①公演満足度 上位第1位	65%以上	81.9%	入場者数および有料入場者数については目標を達成していないが、評価指標は目標を達成している。1日2回公演を行った際の午後の公演の入場者数(午前1096人 午後385人)が少なく、公演鑑賞者のニーズが捉えられていなかった。また有料入場者数の目標については計画時にきちんと設定できていない。		
		実績 値	1,481	46.3%	②チケット料金適正価格 上位第1位	60%以上	83.0%			
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	観客満足度	全公演の67.1%以上で観客満足度の目標達成	全公演平均 84.8%	事業全体を通じて観客の満足度は非常に高く、当初掲げた目標を着実に達成していると評価できる。公演内容については、すみだトリフォニーホールがこれまでに培ってきた実績や企画の方向性を踏まえたくえて、出演者や演奏曲目などのプログラムを慎重に選定している。これにより、ホールの個性や地域性を活かした独自性のある公演が実現している。 さらに、フランチャイズオーケストラである新日本フィルハーモニー交響楽団と密に連携し、演奏の質の向上にも継続的に取り組んでいる点が、公演全体の完成度と観客の満足度を支える大きな要因となっている。こうした協働体制により、質の高い音楽体験を提供する公演制作が可能となり、今後も継続的な成果が期待される。		
人材養成事業	・ジュニアオーケストラ団員数(定員満足度) ・ジュニアオーケストラ演奏会・アウトリーチ活動入場者数 ・プラスクリニック参加者数	・団員数60人以上 ・2,500人以上 ・150人以上	・団員数 83人 ・入場者数 2,427人 ・参加者数 74人	ジュニアオーケストラに関しては、地域内外に向けて積極的に活動の場を広げるとともに、広報・PR活動にも注力したことにより、団員数の増加および演奏会等の入場者数の拡大という成果につながったと考えられる。これにより、地域における音楽教育の継続的な推進と、次世代の音楽人材の育成にも一定の貢献ができた。 一方で、プラスクリニックに関しては、実施にあたって参加校とのスケジュール調整が難航したことや、近年顕著となっている墨田区内の中学校・高校における吹奏楽部の部員数減少といった地域的な課題も重なり、参加者数が想定を下回り、目標の達成には至らなかった。 今後は、これらの課題を踏まえたくえて、より柔軟な実施体制の構築や、学校側のニーズに即したプログラム内容の再検討、広報手法の見直し等を通じて、プラスクリニックの仕組みそのものを工夫し、参加者の拡大と事業効果の向上に取り組んでいく。		
普及啓発事業	・全事業の参加者数	・全事業での総参加者数11,970人以上	・総参加者数 11,858人	参加者数に関しては、若干目標に届かない部分も見られたものの、新日本フィルハーモニー交響楽団によるアウトリーチ事業の実施件数や、すみだ音楽祭の参加者数においては減少がなく、概ね計画通りに推移している。これらの結果から、参加者のニーズを的確に捉えた事業展開が実現できていると評価できる。 今後も引き続き、地域や対象層の多様なニーズを把握しながら、事業内容の質的向上と参加者層の拡大を図ることで、さらなる効果的な活動展開を目指していく所存である。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

当ホールが日本国内で初めて実施した公演企画は、大きな注目を集めるとともに、多くの来場者や関係者から高い評価や感想が寄せられた。これにより、当ホールの創造性や企画力の向上が明確に示され、独自性のある魅力的なプログラムを提供できる施設としてのブランド価値向上に大きく寄与していると考えられる。また、こうした先進的な取り組みは、地域の文化振興や新たな顧客層の獲得にもつながり、今後のさらなる企画展開への土台ともなっている。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・海外アーティストの招聘人数(対象事業) ・海外アーティストの招聘人数(主催公演全体) ・観客の反応(対象事業の満足度数 第1位)	・50人以上 ・100人以上 ・60%以上	・34人 ・101人 ・95.9%	新日本フィルハーモニー交響楽団と共演する海外アーティストを招聘し、すみだトリフォニーホールならではの特色ある公演を制作するとともに、国際交流を促進する取り組みを展開した。目標の参加数や規模には届かなかったものの、多様なジャンルや背景を持つ海外アーティストとのコラボレーションを実現できた点は大きな成果であり、これらの公演における観客からの反響や評価も非常に高かった。 今後も引き続き、世界各国から魅力的なアーティストを招聘し、新日本フィルとの共演を通じて質の高い音楽体験を提供するとともに、国際交流の深化と地域文化の活性化に寄与していく所存である。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

海外アーティストを招聘した公演においては、在住外国人だけでなく訪日外国人の鑑賞者も増加する傾向が顕著に見られ、ホールのロビーなど施設内でも多様な国籍の来場者で賑わいを見せていることが確認できる。

また、招聘したアーティスト自身がSNSや各種メディアを通じて積極的にコンサートの情報を発信するケースも多く、その影響により国内外の幅広い層へホールの認知度と魅力が拡大していると考えられる。

このような双方向の情報発信と来場者層の多様化は、当ホールの国際性向上に大きく寄与していると思われる。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)
※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・区民団体の参画数 ・トリフォニーホール・チケットメンバーズの新規会員数 ・子供対象事業の参加率(みんなで楽しむオーケストラ) ・貸館利用者の満足度(「満足」「ほぼ満足」の回答率)	・25団体以上 ・4,000人以上 ・300人以上 ・85%以上	・30団体 ・5,767人 ・620人 ・86%	区民団体の参画数については、すみだ音楽祭における参加団体が目標の25団体以上を上回り、30団体の参加を得ることができた。これは地域における音楽祭への関心の高まりと、参加を希望する団体の裾野拡大を示している。 また、トリフォニーホール・チケットメンバーズの新規会員数は、当初の目標4,000人以上を大きく超え、5,767人の新規会員獲得に至った。これは、ホールの独自企画や質の高い公演に対する関心の高さと、新たに当ホールの主催事業に触れた鑑賞者の増加を反映している。 さらに、子どもを対象とした事業「みんなで楽しむオーケストラ」における参加率は、目標の300人以上に対し、実際には620人の参加を達成し、目標の倍以上の成果をあげている。これにより、墨田区内の幼稚園や保育園等の団体からの参加拡大が実現し、地域の次世代育成や文化教育の推進に大きく貢献したと評価できる。 貸館利用者の満足度については、一定の回答率を得られている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

子ども対象事業の参加率が目標値を大きく上回った背景には、今回特に幼稚園や保育園の団体からの参加拡大が大きく寄与している。 未就学児の入場が増えたことは、保育園・幼稚園単位での組織的な参加が進んだ結果であり、それぞれの団体が抱える多様なニーズに対応できたことの表れである。 加えて、鑑賞後に子どもたちが園内で演奏者の動きを真似て「オーケストラごっこ」を楽しむといったエピソードを幼稚園保育園の先生方よりお話しいただく機会があり、音楽を身近に感じる機会が自然発生的に広がっている点も特筆すべき成果である。 このような体験は、幼少期からの音楽への親しみや感受性を育むことに繋がり、単なるコンサート鑑賞を超えた貴重な文化体験として、将来にわたり子どもたちの成長や価値観の形成に影響を与えるものと考えられる。 さらに、幼稚園の先生方がホールの活動に関心を寄せられたことで、先生方からの要望によりパイプオルガンに関する研修を別途実施する機会を設けることできた。 こうした取り組みが、今後の事業への参画や連携のきっかけとして、新たな展開につながりつつある。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・若年層の利用者数(区内在学 鑑賞数) ・子育て世代に向けた事業数 ・主催事業託児サービス利用者 ・障害者団体参加者数(みんなで楽しむオーケストラ) ・アウトリーチ事業の実施数	・150人以上 ・2事業以上 ・50人以上 ・10団体以上 ・区内40か所以上	・286人 ・2事業 ・38人 ・15団体 ・61か所	若年層の利用者数については、一律の安価な設定を踏襲してそれぞれの公演で多くの若年層(区内在学在住の学生)を取り込むことができた。 子育て世代に向けた事業を継続して実施し、主催事業全体に託児サービス設け、鑑賞のハードルを下げることや、障害者が参加できる事業を検討し、団体での参加が可能な受付体制を整えるなど、幅広い観客を取り込むことができた。 アウトリーチ事業は区内全域に届けることにより、ホールに来場が困難な方々に向けたアプローチを多くの箇所で行うことができた。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

主催公演においては、学生料金を一律1,000円と設定していることにより、公演ごとに多くの学生利用者を確保できている。 一律料金制は利用者にとってわかりやすく安心感を与えるホールのサービスの一環であり、「また来たい」と思わせるリピーター創出に効果を発揮していると考えられる。 また、「みんなで楽しむオーケストラ」として実施したプログラムでは、車いすのまま舞台前方の「のびのびスペース」への入場を可能にするなど、バリアフリー環境の整備に注力したほか、補聴装置デバイス「SOUNDHUG」や遠隔操作ロボット「Orihime」を活用することで、障害のある方も含め多様な方々が参加しやすい環境を提供した。 このような取り組みを通じて、健常者、障害者、未就学児を含む来場者全員がデバイス利用の様子を共有し、一体感のあるコンサート体験を創出できたことが、多様な参加者の参画促進に繋がっている。 さらに、アウトリーチプログラムについては、開館当初から継続して実施している基盤プログラムに加え、音楽療育やコンサートのテーマに沿った新たなプログラムを開発・実施したことで、実施回数の増加と幅広い対象者へのアプローチを可能にした。これにより、多様なニーズに応える質の高い社会貢献活動としての機能を強化している。
--

評価項目⑤:自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	現在、協賛金獲得に向けて地元民間企業に打診している。	10社200万以上	28社500万	当初の目標を超えることができる。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	年間の計画のもと、事業を推進している。	今後も継続して実施を進めていく。	年間の計画のもと、継続した実施を行った。	当初の計画通り進めることができる。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	コンサートホール企画連絡会議にて協議の場を設け、ホールとの課題協議を行っている。	年2回以上	年2回実施	当初の計画通り進めることができる。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者およびフランチャイズオーケストラとの協議の場を設けている。	年12回以上	年12回実施	当初の計画通り進めることができる。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術面の統括をおこなう人材は配置されていない。	今後について検討を行っている。	検討を進めている。	引き続き検討を行っていく。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	長期的な視点での運営統括責任者は配置されていない。	今後について検討を行っている。	検討を進めている。	引き続き検討を行っていく。		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	外部より芸術面におけるアドバイザーを登用し、事業企画の相談を行っている。	アドバイザーの元、人材育成に向けた強化を行っている。	アドバイザーの元、人材育成に向けた強化を行っている。	引き続き強化を進めていく。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	管理職については設置者からの出向が主であるが、内部より管理職への登用が進んでいる。	内部からの管理職への登用を推進していく。	内部からの管理職への登用を検討している。	引き続き登用を検討していく。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	年齢バランスを考慮し人材確保を行っている。	将来を見据えた人材確保を進める。	将来を見据えた人材確保を進める。	引き続き確保を進めていく。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	現在管理職8人に対し女性管理職は2名となっており、比率は25%となっている。	今後管理職、リーダー職への登用についても検討する。	今後管理職、リーダー職への登用についても検討している。	引き続き検討を行っていく。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児による休業制度を設けている。	各世代が直面する状況に応じた柔軟な体制を強化する。	各世代が直面する状況に応じた柔軟な体制を強化している。	当初の計画通り進めることができる。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	コンプライアンスの順守規定を策定している。	社会情勢に応じた規定改定を進めていく。	社会情勢に応じた規定改定を進めている。	当初の計画通り進めることができる。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	ハラスメント防止対策を策定している。	策定内容に基づき研修等をおこなっていく。	策定内容に基づき研修等をおこなっている。	当初の計画通り進めることができる。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	公演ごとに契約書面を交わし適正に進めている。	継続して適正な契約書を交わしていく。	継続して適正な契約書を交わしている。	当初の計画通り進めることができる。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

すみだトリフォニーホールとして、地域に根ざした質の高い音楽文化の創出と、多様な層への音楽体験の提供を目指し、多角的な取り組みを進めてきた。結果として、観客満足度は高く、各種目標も概ね達成または上回る成果をあげている。

公演事業においては、すみだトリフォニーホールの豊富な実績と新日本フィルハーモニー交響楽団との緊密な協働により、出演者・プログラムの質を向上させ、満足度の高い公演を実現した。学生料金の一律設定や、多様なニーズに対応したバリアフリー環境の整備、最新デバイスの活用など、参加者が安心して来場できる仕組みづくりも功を奏している。また海外アーティスト招聘による国際交流事業は、目標には及ばなかったものの多様なコラボレーションと高い観客反応を得ており、引き続き国際的な文化交流の推進が見込まれる。

また、助成事業ではないが、他にも多様なアーティストを招聘して新日本フィルハーモニー交響楽団との共演を増やしたことで、さらなる共演の可能性を見据えた企画の幅を広げており、今後の事業展開に向けた礎が築かれている。

人材養成事業においては、ジュニアオーケストラは積極的な活動拡大とPRにより団員数・入場者数の増加を実現し、地域の次世代育成に貢献。一方、ブラスクリニックはスケジュール調整の難しさや吹奏楽部員数減少の課題から目標未達となったが、今後の改善に向けた方針を明確にしている。

普及啓発事業において、アウトリーチプログラムは基盤の継続実施に加え、新たなテーマに即したプログラム開発も進め、多様な対象者へアプローチを拡大。すみだ音楽祭における区民団体の参加増加、新規チケットメンバーズの大幅な増加も、地域との結びつきの強化とホール事業の魅力向上を示している。

特に子ども対象事業では、幼稚園・保育園団体からの参加拡大が目覚ましく、鑑賞後の子どもたちによる「オーケストラごっこ」など、音楽への親しみを育む文化的効果が確認された。これらの体験は将来にわたる価値創造につながるものであり、今後も一層の充実が期待される。

一方で、長期的な運営体制の構築や、複数年を見据えた中長期的な事業計画の精緻化といった視点は、今後さらに検討を深める必要がある。外的な社会変化や参加者層の多様化に対応しながら、より柔軟かつ持続可能な運営方針が求められると考えられる。

以上のことから、ホールと地域社会、アーティスト、参加者が一体となり、多様なニーズに応えることで、持続可能な文化環境の形成に寄与している。来年度以降は現状の成果を踏まえつつ、入場者数の増加、参加者数の拡大など課題を克服しながら、より一層の発展を目指していくことが求められる。

・ 所見

